



神戸市会議員 坊やすなが

坊やすなが プロフィール【略歴】
 昭和42年北区八多町生まれ 八多保育園卒園後
 地元 幼・小・中・県立神戸北高校を卒業
 平成元年 佛教大学文学部卒業
 同年 衆議院議員 砂田重民 秘書
 平成11年 自民党兵庫県連 青年部長
 平成12年 衆議院議員 公設第一秘書
 平成15年 神戸市会議員に初当選(現4期)
 市会常任委員長、特別委員長等を経て
 平成24年 自由民主党神戸市会議員団 幹事長
 平成25年 神戸市監査委員 議選委員
 自民党政令指定都市青年議員連盟 会長
 平成27年 市会運営委員会 委員長
 平成28年 神戸市会 副議長

厳しい寒さもようやく緩み、桜の便りに春の訪れを感じる頃になりました。
 皆様には平素より格別のご厚情を賜り心から感謝申し上げます。

神戸市会では3月29日までの日程で30年度予算を審議する予算市会が開かれました。
 震災復興から未来を創造するための予算に大きく舵が切られ、市民福祉を向上させる為には
 安定した税収を確保することが必要であることから、神戸経済をけん引する港湾産業をはじめ
 とした産業への支援は勿論の事、未来の神戸経済を先導する新産業の育成や中心市街地の活性
 化等を意識した予算が市会に上程されました。審議の結果、我々自由民主党神戸市会議員団
 は26項目の要望を付して賛成、予算案は可決しました。

この際、昨年の決算市会そして今回の予算市会での発言を、また皆様にお約束致しており
 ます政策の達成状況も併せてご報告いたします。とりわけ私が構想段階から関わっております
 「道の駅フルーツフラワーパーク大沢」が開業以来1周年を迎え、その現状については特集
 記事として記載いたしました。是非ご一読下さいますようよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら貴家皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。

合 掌

～心から感謝を込めて～

観光交流都市推進神戸市会議員連盟 会長
 神戸市会議員

坊 恭寿

これまでに実現したことを更に充実させることができました！

神戸市シニア利用促進パス「神鉄シーパスワン」 販売枚数を現行の4枚から5枚へ拡充

着実に進行中!

- 平成27年度 「神鉄シーパスワン」社会実験開始
- 平成28年度 「神鉄シーパスワンPlus」神戸高速鉄道も利用可能
- 平成30年4月 **販売枚数4枚限りを5枚へ拡充**

新北区役所9月に供用開始

北神支所の区役所化も進んでおります!

- 平成10年6月 北神出張所に機能転換
- 平成29年4月 北神出張所を北神支所に格上げ
- 平成30年2月 北神支所 受付窓口のリニューアル
- 平成30年9月 **新北区役所 供用開始**

小・中学校の遠距離通学者助成の拡充

実現!

公共交通機関を利用して通学する市立小中学生の
 保護者に対する通学費助成を拡充

(平成27年度) 1/2 補助 → (平成30年度) 全額補助に拡充

高校生通学費助成

着実に進行中!

北神急行・通学定期券購入費の一部を助成

消防団条例一部を改正

- 緊急対応団員制度を導入し、平日昼間に災害出動
できる団員を入団させ災害対応力を向上させる。
- 長期出張や病気、育児等のため、一定期間に限り
活動を休止させる(休職・休業)制度を創設する。
- 市長の決断により団員の年報酬が、政令市及び
東京都と比較して最高額が支給されます。

地域要望により
実現します!!



光回線整備が実現へ!! 実現!

初当選時より光回線未整備地区の皆様から強い
 要望があり、まず2年前倒しをしてLTE回線を整備する
 ことができました。そして、この度地域の皆様からの切実
 な要請を受け、当局との議論の結果、久元市長の英断で
 光回線の整備(市が負担)が実現します。

神戸新聞 平成30年2月6日

神戸市 光回線の空白区解消へ

神戸・三宮から北西約15km、約2600人が暮らす。テッポウユリやチューリップの産地として知られ、夢をき民家が点在する。

全約800戸のうち淡河地区が東部の約400戸は光回線が未整備。これまでは電話回線をネットに代用するADSLや、スマートフォン用の無線通信回線(LTE)を使っていた。地元から高速回線の要望があり、市は光回線の整備を検討している。

たが、1億円近い工費がかかることから見送られてきた。一方で兵庫県内の光回線整備は進み、県情報企画課によると、昨年11月現在、カバー率は全世帯の99・83%に上る。未整備だった三田市と神戸町の一部にも18年度中に整備される見通しとなり、県内では未整備な地区は淡河地区のほか、但馬や丹波などの奥地集落などわずかとなくなっている。

そこで神戸市は民間事業者に

高速通信インターネットサービスが普及する中、神戸市は市内で唯一未整備だった北淡河町の上淡河地区などの光ケーブル回線設置に乗り出す。2019年度から利用開始の見通し。

神戸の都心部から車で30分の田園地帯では近年、里山暮らしに憧れる移住希望者が増えており、地域活性化につながるこの期待もある。

移住希望者増の淡河町 高速ネット、住民ら期待

工事費を補助し、淡河町東部と隣接する大沢町の一部で光回線を整備することにし、17年度補正予算案に関連費用を盛り込むことを決めた。

淡河町自治協議会長の永福武さん(76)は「『自宅では仕事ができない』と淡河を出て行く若者を見てきた。これで、淡河にとどまってくれる人が増える」と喜ぶ。上淡河婦人会長の佐々多律子さん(62)は「淡河への移住をPRするにあたって、条件が整った」と話す。

Boing all the way ～こうべの未来を紡ぐ対談～

第一回「一周年を迎えた神戸フルーツ・フラワーパーク「道の駅」ファームサーカス」



高山壽弘(株式会社 北神地域振興専務) × 坊やすなが(神戸市議)

平成29年3月30日にオープンした 神戸フルーツ・フラワーパーク大沢「道の駅」ファームサーカス。地域の方が地域の財産として運営していく道の駅、「民設民営の道の駅」として開業一周年を迎えるにあたって、これまでの実績や今後の課題等についてのお話を伺いました。



(坊)… はじめに、この事業に携る事になった経緯と、この道の駅についてのコンセプトというか、他の道の駅との違い、といった部分について、読者の方の理解を深めて頂くといった意味も込めて、改めてそのあたりのお話をお願いします。

(高山)… 3年前に神戸市より公募があり、大手企業が手を挙げる中、地域活性化をより健全に行っていくには、地元企業主導によった運営が欠かせないのではないか?といった思いで、この地で事業を営んでいるものが出資し、まちづくり会社を設立、そして運営に携わる経緯となりました。他の道の駅と違ったユニークな点といえば、我々がメインのコンセプトとして掲げている「地産地消を遊ぼう」といったところから展開した、例えば農業体験などのイベントの実施や、新鮮な地元の野菜が食べられる食堂の運営、また、地産の日本酒の量り売りや、米の精米販売などがあります。



(坊)… 野菜たっぷりの体に優しい献立のある食堂は地元の方からも人気ですね。

(高山)… グロッサリーに関しては、神戸市内の中小企業の商品、またスーパーや量販店等の扱っていない、こだわりのある商品を選定し魅力的な売り場となるように心掛けています。地元野菜に関しては、約80軒の農家から供給があり、季節の新鮮な作物は売り場の中心的存在で好評をいただいています。また売れ残りの野菜に関しては、無駄のないように、現在は試行レベルですが、惣菜等加工食品への転用を関連会社で行っており、認証をとったハラル食品や機内食など、高付加価値の商品づくりにも取り組んでいます。

(坊)… 道の駅の周辺地域の活性化が、神戸全体の活性化と繋がっていく流れは、まさに理想的。地域の生産物が道の駅で加工されてワンストップで外に出ていくといった事も全く新しい試みなのではないですか?運営してもうすぐ一年ですね。さて今日の本題といえますか、実績についてはいかがですか?

(高山)… まず来場者数からいきますと、スタート前の昨年度の実績が65万人、道の駅開業時の当初目標は100万人でした。現時点では150万人を達成する見込みとなっております。来場者では、以前の施設の2倍以上を達成しました。また売り上げに関しても想定の1.3倍を実現しました。

(坊)… 順調で何よりです。地域経済への効果といった点ではどうですか?

(高山)… 農産物や加工品の仕入高は2億円以上で、売り場が増えたことによって増産を行った農家も多いと聞いていますので、地域に対する貢献はある程度実現できているのではないかと考えています。

(坊)… 実際に運営してきた事によって見えてきた問題点などはどうですか?

(高山)… お客様からの声ですが、売り場が狭い、週末に関しては道路の渋滞が酷い、飲食スペースが少ないといった事があり、市への要望として周辺の渋滞の緩和について取り組んでいただけるとありがたいです。

(坊)… 大沢インター出口の二車線化や、案内看板の増設などすでに着手しています。今後の整備についても、新名神開通に伴う交通の流れの変化なども踏まえ、近隣の方々からのご意見を取り入れて検討していきたいと考えています。

(高山)… 野菜の販売に関して、今後更に拡充していきたいと考えていますので、神戸市からの何らかの支援をいただければ嬉しいです。

(坊)… わかりました。また具体的に聞かせてください。さて今後の展開、展望についてはいかがですか?

(高山)… 現在施設正面に、幼児の遊べるスペースと、イベントの開催スペースの設置工事をしており、そこを活用したイベントなどを考えています。またファームビジット、生産地を体験するイベントなども計画しています。また「道の駅 淡河」さんとの連携も取っていきたくと思っています。そして地域雇用も増やしていきたいので規模の拡大にも取り組んでいきたいと思っています。あとは現在も足湯は人気ですが、温泉も活用していきたいですね。

(坊)… 展開が楽しみです。『道の駅 淡河』との連携は、特に期待しております。最後に読者の方に何か耳寄りな情報などはありますか?

(高山)… 広大な敷地なので季節折々の素晴らしい自然の風景を楽しむことが出来ます。私自身もここで過ごすまで知らなかったのですが、これからの季節であれば、春は見事な桜が楽しめるスポット、そして6月は紫陽花の種類ですが「アナベル」という、とても綺麗な花がみられる場所などもあります。お買い物や飲食といった目的以外でも、そういった、この場所の魅力的な景観をぜひ訪ねてみてください。

(坊)… 地域力を上げることによって、様々な前向きな発想が生まれ地域が成長していく。構想から関わらせていただいたこの道の駅ですが、こうして形になって順調に進化している様子を伺うと、とても嬉しく思います。本日はありがとうございました。

(高山)… ご期待に沿えるようがんばります! ありがとうございます。

Interviewer/Photo : 大保正美

ファームサーカス一周年記念「1th Anniversary FARM CIRCUS マルシェ」開催

神戸フルーツ・フラワーパークが道の駅になり、FARM CIRCUSがオープンして、無事に1周年を迎えられました事を記念致しまして、2日間限りのマルシェ「1th Anniversary FARM CIRCUSマルシェ」を開催致します。更に、より多くのお客様に楽しんでいただけるよう、特設の飲食スペースもご用意致します。この機会にぜひお越しくださいませ。

◆日時 : 3/31(土)、4/1(日) 10:00～16:00

◆出店者と出品商品

- ① KÖLN(ケルン)…パン(クリームパン、カスクート)
- ② DAYS KITCHEN…炭火焼ピザ、ミネストローネ
- ③ 大沢婦人会…手巻き寿司
- ④ 関西学院大学同窓会…餅、餅つき
- ⑤ 日乃本食品…おこわ
- ⑥ 八多町中地区そば打ち愛好会(弊社社長)…かけそば
- ⑦ 有馬観光協会…焼きそば
- ⑧ FARM CIRCUS…焼きとうもろこし
- ⑨ 酒米「政岡(まさおか)」で作ったビールの試飲会ブース



お問い合わせ・あらゆるご相談は
 神戸市会議員

坊やすなが まで

〒651-1301 神戸市北区藤原台北町2-11-6
 TEL 078-983-1711 FAX 078-983-1719
 E-mail bo.yasunaga@gmail.com

平日の観光宿泊客数増加に向けて

Q 坊やすなが議員 予算特別委員会（平成30年3月7日）

平日の観光宿泊客増加には、花火大会の形式を変え、花火を平日（毎日）に短時間でも打ち上げた方が良いのではないか。

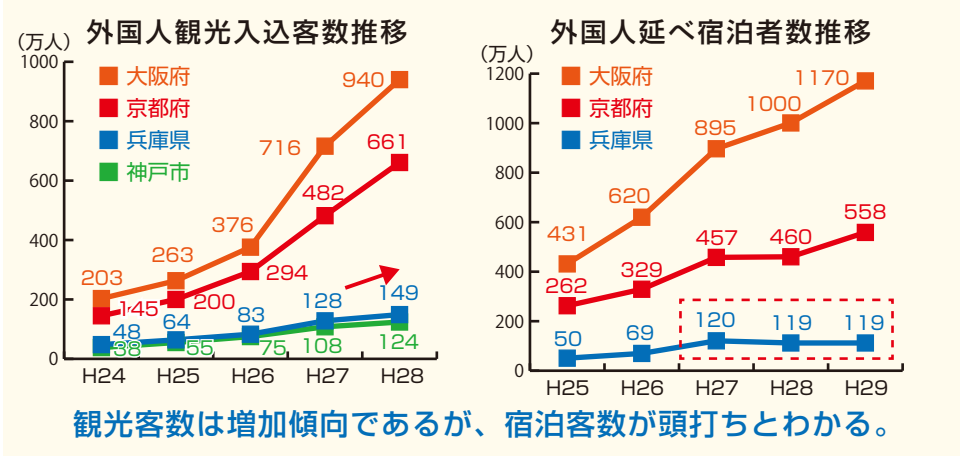
現在、観光で一番苦労しているのは、平日の宿泊客をいかに増やすかということである。また、平日の宿泊単価が安いままであれば、新たなホテル建設にも結びつかない。そうなれば神戸に来る観光客の数は頭打ちになる。

神戸花火大会の経費（1億8千万円）の多くは、警備や協賛席の運営、清掃に使用され、実際の花火や打ち上げ代だけだと、もっと多頻度に打ち上げられると思う。この花火大会の形式を少し考え直し、港（花火会場）とホテルの近い神戸では、平日に毎日短時間でも打ち上げる方が、年間を通した観光への貢献度はより良く、低予算で効果が出ると思うがどうか。

A 金谷 みなと総局担当局長

宿泊観光に繋がる花火を含めた集客コンテンツについて研究してまいりたい。

ほっともっとフィールド神戸でのオリックス戦の「花火ナイト」や、大規模テーマパークにおいて定時に花火を打ち上げている事例もあるので、そういったものを十分に調査し、受益者である近隣ホテルや商業事業者等の意見を聞き、協力しながら、宿泊観光に繋がる花火を含めた集客コンテンツについて研究してまいりたい。



道の駅を核とした日帰り観光客誘致について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

複数の観光資源を結びモデルルートを構築することで日帰り観光客誘致に取り組むべきと考えるが。

神戸市域は広域で、市内各所に魅力が点在し、京都や大阪からも近く日帰り観光であっても十分に楽しめる恵まれた立地にある。今年、道の駅神戸フルーツ・フラワーパーク大沢がオープンしたが、前年同期比の2倍を超える来場者を記録するなど、多くの観光客でにぎわっており大変評価されている。この道の駅を核として、淡河の道の駅の活用や海側での新たな集客スポットとなる道の駅の整備などにより、複数の観光資源を結び魅力的なモデルルートを構築することで日帰り観光客誘致に取り組むべきと考えるがどうか。

A 久元市長

「食」などを切り口に、モデルルートづくりの充実を図り観光客の周遊性を高めていきたいと考えている。

指摘のように、道の駅を核とした周辺の魅力ある観光資源とのネットワーク化は、日帰り観光客誘致の施策として大変有効であると認識している。

今後、神戸DMO（地域が一体となって観光戦略を展開する際に「かじ取り役」となる組織）の設立を契機として、これらの取り組みとあわせて、神戸ビーフや神戸スイーツ、灘の酒など神戸を代表するブランドとなっている「食」などを切り口に、モデルルートづくりの充実を図り、観光客の周遊性を高めていきたいと考えている。

公共交通の運賃低減について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

運賃低減にむけた働きかけを阪急電鉄等に積極的に行っていくべきと考えるが。

北区においては、神戸電鉄を利用して三宮以东に行く場合には、神戸高速線や阪急神戸線を同一企業グループが運行しているにも関わらず、路線ごと初乗り運賃が発生して高額な運賃となっている。

平成34年には神戸高速が所有する北神急行の残債務等を阪急電鉄に引継ぐことが予定されている。様々な条件をいろいろ詰めていくなかで、交渉のカードとして、運賃低減にむけた働きかけを阪急電鉄等に積極的に行っていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

鈴蘭台駅	神戸電鉄 有馬線	湊川駅	高速神戸線 南北線	新開地駅	高速神戸線 東西線	神戸三宮駅	阪急神戸本線	王子公園
例:(大人) <u>350円</u>		+		<u>150円</u>		+ <u>150円</u> = 合計 <u>650円</u>		
乗継=初乗り運賃				乗継=初乗り運賃				

A 久元市長

平成34年度までに、利便性の良い公共交通体系に阪急阪神グループと密に連携し、検討していきたい。

神戸高速線の運賃は、実際に車両の運行管理を行う阪急電鉄等の鉄道事業者の経営判断により決定されるものであるが、いくつかの鉄道路線を跨ぐ利用者の負担感が大きいことは理解している。

今後も運賃を下げるのが現実的にできないのか、引き続き阪急阪神グループに働きかけを行っていききたい。

平成34年度以降は北神急行に関する債務等が阪急電鉄に引き継がれることになっており、このタイミングがひとつ大きなポイントになると我々も認識しており、今後、検討していきたい。

新産業の企業誘致について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

神戸経済の成長には、ベンチャー企業の誘致や市内の大学等と連携した起業家の育成が必要と考えるが。

IT関連産業の集積と振興について、起業家の育成支援が重要であるのはもちろんであるが、今後さらに神戸経済の持続的な成長を進めていくためには、企業や起業家、大学・研究機関等による協業などの相互作用の中で、イノベーションのエコシステムを構築していくことが重要であるとする。そのためのステップとして、ベンチャー企業の誘致や市内の大学等と連携した起業家の育成に積極的に取り組む必要があると考えるが、見解を伺いたい。

A 久元市長

ベンチャー企業の誘致や市内の大学等との連携など、時機を捉えた新たな施策の展開が大切だと考えている。

神戸にイノベーションのエコシステムが成立するには、既存企業、大学・研究機関、オープンな気質を持つ市民が不可欠であり、これに起業家やそれをサポートする投資家などの活動が鍵を握ると考えている。これらのエコシステムに必要な要素を神戸の地に整えていくためには、長期的な目線で取り組みを続けることが大切であり、ご指摘のように、ベンチャー企業の誘致や市内の大学等との連携など、時機を捉えた新たな施策の展開が大切だと考えている。

ベンチャー企業誘致については、IT業界から、市のスタートアップ支援に注目して頂いており、現実に今年度に入って2つのIT企業が神戸に本社を移転しており、今後もしもご指摘を踏まえて、このような取り組みを積極的に推進して参りたい。



スタートアップ支援「谷上プロジェクト」5月下旬に神戸電鉄・北神急行電鉄の谷上駅構内の空き店舗スペースを活用。既にベンチャー企業8社が本店登記（3月現在）

神戸港でのAI・IoT技術の導入について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

30年先に自動化される神戸港に向けた環境づくりに早急に取り組む必要があると考えるが。

30年先に自動化された神戸港が出来るというイメージで構想が発表された。AI化（人工知能）、IoT化（インターネットにモノが接続されること）が進むと、今まであった仕事異なるものに置き換わったりすることが多く出てくる。これまで神戸港に携わってきた歴史ある既存の企業も多くあるが、それらの役割が大きく変わってくるので、今からその影響を抑えるような取り組みに、業界とみなと総局が一体となって仕事の幅・業態を多角的に増やしていき、いざという時に緩衝材となっていくような環境づくりに早急に取り組む必要があると考えるが。

A 吉井 みなと総局長

全体で取り組むというレベルにはまだ至っていないのが現状なので、今後ともしっかりと取り組んでいきたい。

業界は、基本的には中小企業であり、波動性の高さや労働者の高齢化等の問題があり、これからどうしていくのかという議論はある。少し前から、業界の皆様から相談を受けている。港湾労働者がすぐに次の事業に、というのは難しい部分もあるが、会社の経営の波動性を吸収することも含め、企業としての体力を持ってもらうべく、不動産業や別の集貨事業など事業運営の多角化を進めてもらっている。ただ、本市が誘導することは難しく、またギャランティも出せないことから、今のところは個別に相談をいただければしっかりと相談に乗り、サジェストや支援をする体制は出来ているが、全体で取り組むというレベルにはまだ至っていないのが現状なので、今後ともしっかりと取り組んでいきたい。



30年先の神戸港口ジスティブターミナルのイメージ

新産業、海洋産業クラスターの形成について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

海洋産業クラスターの形成が進められているにもかかわらず、当局の体制は昨年と全く変わっていないが。

平成29年6月に海洋産業の集積するスコットランドから複数の大学、企業を招いて「海洋ビジネスセミナー」が開催され、神戸からも多くの民間企業や研究機関が参加したと聞いています。さらに現在は、北海周辺地域の最新情報を神戸市に提供するとともに、市内中小企業と現地企業のビジネスマッチング等を行うビジネスコーディネーターの配置に向け、事業者の選定にも取り組んでいるとの事である。

このように、海洋産業クラスターの形成に向けた取り組みが加速度的に進められているにもかかわらず、これを推進する当局の体制は昨年と全く変わっていない。このような状況ではスピード感を持って事業を遂行することは厳しいのではないかと。

国際戦略港湾について

Q 坊やすなが議員 代表質問（平成29年9月6日）

港湾を取り巻く状況がめまぐるしく変化している中神戸港はこれにどう対応していくのか。

国際コンテナ戦略港湾施策の成果もあり、平成28年の取扱コンテナ数は280万TEUと震災以降過去最高を更新し、今年上半年の速報値でも着実な伸びを示していることから、このまま推移すれば過去最高も視野に入ってくるものと期待している。一方で、船社のアライアンスの再編や邦船3社の統合など、港湾を取り巻く状況がめまぐるしく変化している中、神戸港はこれにどう対応していくのか。また、航路の維持拡大には時機を得た情報収集とトップセールスが非常に重要と考えるが見解を伺いたい。

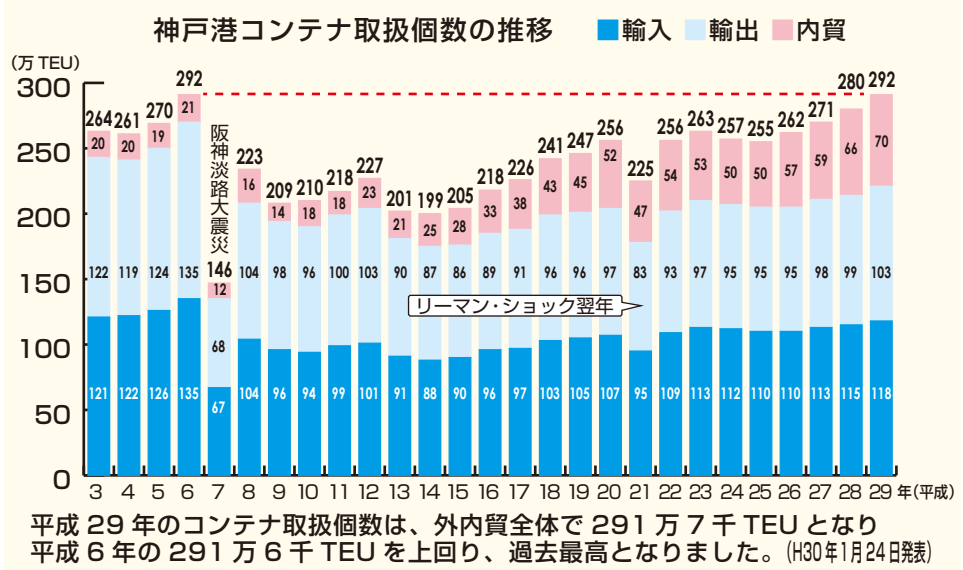
A 久元市長

ご指摘の通り、情報収集やトップセールスは非常に重要である。

今年度は、トランシップ貨物に主力を置いて集貨を進めており、北米・アジア間等のトランシップを始めとする貨物の取り込みを実施し、引き続き、船社と協議を行っており、トランシップ貨物の取り込みを強力に推進していきたい。

また、成長著しい東南アジアからの集貨に取り組むため「アジア広域集貨プロジェクトチーム」を結成し、東南アジアから北米向け貨物の新たなトランシップサービスの構築に向けて、トライアルを実施する予定である。

坊議員からはトップセールスを積極的に展開するようにとご指摘をいただいた。今年の4月にはアライアンスが大きく再編され、7月には邦船社のコンテナ船事業の統合会社が発立されたほか、中国船社による香港船社の買収が発表されるなど、港湾・海運を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、各船社への情報収集やトップセールスは非常に重要であると考えている。



A 久元市長

着実にこの分野で果実を得ていくためには、スピード感を持って進め、庁内体制の強化を検討していく。

海洋産業の先進地である北海周辺地域に駐在し、現地の企業・大学等と神戸の企業・大学等との橋渡し役として活動して頂く神戸市海洋ビジネスコーディネーターを配置するべく、現在公募選定中であり、既に4件の応募があった。一方、横浜市や長崎県などにおいても海洋に着目した取り組みが活発化している。

このような状況下、神戸が着実にこの分野で果実を得ていくためには、スピード感を持って進めていくことが重要である。庁内体制については、現在、企画調整局を中心に、関係部局が連携しながら進めているが、今後、議員ご指摘を踏まえて、庁内体制の強化を検討していき、その際には、産官学が同一の目標・ビジョンを共有することが重要であることから、海洋分野においても、医療産業都市構想での経験則を活かし、ビジョンの策定・共有とともに進めていきたい。